

10月は、町が関わる大きな行事があり、中学生ボランティアが活躍しました。

- 1日には、多数の町民の参加により、笠松町民大運動会が盛大に行われました。さまざまな競技で熱戦が繰り広げられる中、オレンジTシャツを着た中学生約70人が、分担された係に分かれ、担当者の指示をもとに自分で考えて動き、大会運営に協力しました。多くの関係者や参加者から、「今年の中学生ボランティアはとっても動きがいいね。」という声を聞くことができました。運動会終了後の片付けやゴミ拾いにも熱心に取り組み、「来たときよりも美しく」を実践する姿に感心しました。
- 21日には、笠松町内の多くをコースに取り入れた名鉄ハイキングが行われました。今回も、多数の参加者が訪れる中、美濃郡代笠松陣屋・岐阜県庁跡では、中学生ボランティア約20人が待機し、参加者に飲み物をふるまったり、休憩を呼び掛けたりし、心のこもったおもてなしをしました。途中から雨が降り出しましたが、それでも熱心に動き、任された事をやりきろうとする姿にあふれていました。

今年は、リバーサイドカーニバルが中止となり、ボランティア活動の機会が減ってしまいましたが、ボランティアに積極的に参加しようとする心や気持ちを大切にしてほしいと思います。



町民大運動会での器具の準備



町民大運動会での景品の配布



名鉄ハイキングでのおもてなし

かさまつのみ話「昔むかし」

うたれ坊②

初代鏡岩。——若いころ、
 家業の糸や綿の商売に精を出していた。身体も大きく、
 力の強いことでも評判だった。家の人の許しをえて江
 戸相撲界に身を投じ、数年で大関までのぼるとい
 う勢いであつた。

ひまをみつめて笠松に帰ると、その姿をひと目見ようと、
 近くからおおぜいの人が集まつてきた。

美しいはだと力強い姿。それに阿波守からいただいた化粧まわしを眺め、その豪華さのため息をもらしたものだつた。

しばらくして引退、再び家業にはげみ、六十二歳でな
 くなつた。

「すばらしい関取だ。」

と、評判の高かつた初代鏡岩にくらべ、同じ大関にまで進んだというものの、二代目鏡岩助三郎の評判はあまりよくなかつた。

五平は、こんなうわさを聞いたことがあつた。

「笠松の家はほかりつぱなし。引退しても、ちつとも家には帰つてこんそうな。」

「なんでも、加納に住み、みんなにえろう嫌われとるそうや。」

「わいは江戸一番の相撲取りだ。わかつたか！。虫けらども。やあい小僧ども頭が高いぞ」という調子でいばつとる。まちの子どもたちまでビリビリやそうな。」

つつく

かさまつのみ話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。
 笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。